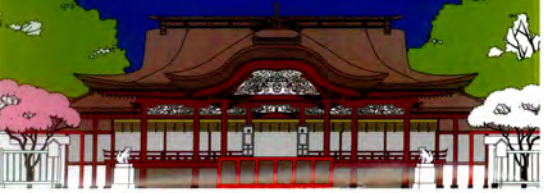
DAZAIFU TENMANGU

# 太宰府天満宮



## 受験合格祈願・学業上達祈願の申込みご案内

お申し込み戴きましたら、御札・御守をお送りし、当宮御本殿にて1年間の祈願祭を執行いたします。

**初穂料 5,000円** [別途送料1件140円(送付先が依頼者と異なる場合は220円、複数ご依頼の場合は、ご連絡下さい)]

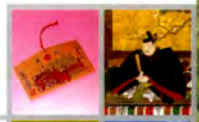
〈必要事項〉●お申し込み者の〒番号・住所・氏名・電話番号
●本人(祈願を受ける方)の〒番号・住所・氏名(ふりがな)現在学年
●祈願の種類(例:大学受験、国家試験、学業上達)
●御札・御守の送付先(申込者または本人をご指定ください)

〈FAXによるお申し込みの場合〉上記の必要事項を記入して、FAXでお申し込みください。お支払いは、御札・御守のご送付時に同封いたします「ゆうちょ銀行の払込取扱票」をご利用の上、お納めください。

**FAX番号 092-920-2525**
(宛先:太宰府天満宮 学業係)

〈郵送によるお申し込みの場合〉上記の必要事項を記入して、現金書留にて郵送ください。
送付先:〒818-0195 太宰府市宰府4丁目7番1号
太宰府天満宮 学業係

〈お問い合わせ先〉上記に関してのご質問・ご不明な点は、電話にてお問い合わせください。
TEL 092-922-8484(太宰府天満宮 学業係)



まほろばの里と筑紫路へ、太宰府天満宮へ。

## 無料ガイドサービスのご案内

太宰府天満宮では、ガイドによる案内サービスを実施しています。(料金:無料)2名からのグループで、どなたでもご利用いただけます。

**利用時間**●10時~16時(受付15時30分まで)
**コース**●総合案内所~本殿前まで30分コース60分コース
**利用対象**●2名から30名程度までのグループ
**受付方法**●専用申込書をFAXで、お申し込みください。
当日受付もできますが、予約を優先します。

※予約時間は厳守願います。
予約があっても、到着が15時30分を過ぎた場合は利用できません。

■お申し込み・お問い合わせ/太宰府天満宮ガイドサービスの会事務局
TEL(代)092-922-8225 FAX092-921-1010

上記申込書はホームページにございます。http://www.dazaifutenmangu.or.jp/

**太宰府天満宮**
〒818-0195 福岡県太宰府市宰府4丁目7番1号
TEL(092)922-8225 FAX(092)921-1010
http://www.dazaifutenmangu.or.jp/


H21.6改訂

# 一千年の緑のしずく。

木々の緑をつたって、
光が降りそそぐ。
千年を生きぬいた大樹からも、
萌えるような新緑からも、
生命力の輝きが、
ほとばしっている。
天神さまのやさしさが、
あなたの上に、
降りてくるように。

東風吹かば
にほひおこせよ梅の花
あるじなしとて
春な忘れそ

### 飛梅伝説

### 太宰府天満宮の歴史

太宰府天満宮は、大宰府に左遷され、延喜三年(903)この地で亡くなられた菅原道真公をお祀りしています。幼い頃から文才に秀でた道真公は、十八歳で進士、三十三歳で文章博士となり、五十五歳で右大臣に就任しました。有力氏以外の右大臣は吉備真備以来のことで、異例の昇進は、藤原氏の強い反発を招き、延喜元年(901)、藤原時平のざん言により失脚、大宰権帥として都を追われました。道真公が配所の榎社で亡くなられたのは二年後の五十九歳の時で、門弟の味酒安行が延喜五年(905)墓所に祠を建てたのが天満宮の始まりです。その頃、都で続く天変地異を道真公のたたりと畏れた人々が、道真公を御霊として神格化するようになりました。延喜十九年(919)には勅命により社殿が完成し、道真公の御神徳を追慕する庶民の間に天神信仰が広まり、太宰府は門前町として発展していきました。道真公の御墓所でもある現在の本殿は、天正十九年(1591)小早川隆景公によって建立され、「五間社流造」、国の重要文化財に指定され、今日も多くの参拝者をお迎えしています。

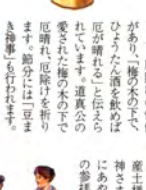
# 一千百年も経つと神事は生活に溶け込みます。

### 初詣

飛梅の蕾がほころび始める新春。例年正月三ヶ日(約一百万人の人々が、一年の幸せを願って「天神さま」に手を合わせます。

### うそ替え ●1月7日

天神さまのお使いの鳥、「うそ」をかたどった木うそを、「替えましょう、替えましょう」と唱えながら、筥崎門前広場で交換します。神職の持つ木うそを手にした人は、「純金のうそ」と一年間の幸運が得られるという、開運出世・除災招福を願う神事です。幸運の金うそは合計十二体授与されます。



### 鬼すべ ●1月7日 (福岡県無形民俗文化財)

氏子の人々が、すべ手、鬼警固方などに分かれ、鬼すべ堂内に籠る鬼をいぶし出す、災難消除、火除けの神事。大きな炎が鬼すべ堂を包み、夜空を彩る日本三大火祭りの一つともいわれます。

### 節分厄除祈願大祭 ●2月1日~7日

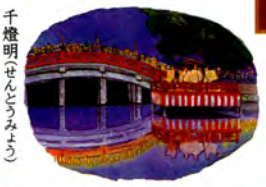
太宰府天満宮では古くより厄除けの信仰があり、「梅の木の下で、ひょうたん酒を飲めば厄が晴れる」と伝えられています。道真公の愛された梅の木の下で厄晴れ、厄除けを祈ります。節分には「豆まき神事」も行われます。

### 夏まつり ●7月24日・25日

天神さまの御生誕(旧暦6月25日)をお祝いすると共に、子どもの健やかな成長を願う夏越しの祭り。茅を束ねて大きな輪にした「茅の輪」をくぐると厄や穢れを祓うといわれます。

### 千燈明(せんとうみょう) ●7月25日・9月25日

心字池周辺に約千本のロウソクを献燈して、御神霊をお慰めする神事です。水面に炎が揺れるさまは幻想的です。9月には水上舞台にて神楽が奉納されます。



### 神幸式大祭 ●9月21日・25日 (福岡県無形民俗文化財)

康和三年(1101)大宰権帥大江匡房によって始められ、道真公の御神徳を仰ぎ、五穀豊穣を神明に感謝する秋の大祭です。天神さまの御神霊を奉安した御神輿に供奉する神職、氏子達は、本殿より講居の地榎社行宮まで神幸します。

### 宮参り・産土参り

赤ちゃんの健やかな成長を祈って、産土様にお参りします。「学問の神さま」である道真公の御神徳にあやかろうと遠方からも多くの参拝者が訪れます。

### 曲水の宴 ●3月第1日曜日

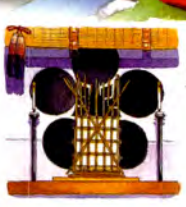
衣冠、束帯、十二単など平安の装束をまとった詠み人が、曲水の溝に浮かべられた盃が流れてくるまでに和歌を詠み、盃を飲み干す歌詠の神事。雅楽が奏でられるなか、平安の雰囲気が偲ばれます。

### 七五三 ●11月15日

「七五三」は、三歳の帯結び・髪置き、五歳の袴着・被衣初め、七歳の帯解き・紐直しに由来します。帯の結びに、天神さまとのご縁を重ねて、子どもの成長を祝います。

### 秋思祭 ●旧暦の9月10日

月明りに照らされた大宰府政庁跡で、神事を斎行し神楽を奉納します。かつて清涼殿で行われた重陽の節句の後宴で、道真公が「秋思」の詩歌を詠まれ、天皇から御衣を拝領された故事にちなんだ神事です。



### 更衣祭 ●4月20日・11月20日

春秋二季に行われ、春には夏の御衣(白羽二重の単衣)秋には冬の御衣(同じく綿入れ)を天神さまに奉ります。

### 学業祈願

「学問の神さま」道真公の御神徳にあやかり、合格祈願や学業成就を願います。本殿に上がり祈願を受け、絵馬に願いを書いて絵馬掛所に奉納します。

# 一千百年も経つと境内は「由緒」にあふれます。

## 神苑の梅

みごろ●2月上旬～3月中旬

東北の神苑には、約二百種、約六千本の白梅、紅梅、早咲き、遅咲き、一重、八重がそれぞれに咲き競います。寒のころ、一輪、一輪とつぼみをほころばす姿という風情そのものです。

## 飛梅（とびうめ）

「東風吹かばにほひおこせよ梅の花あるじなしとて春な忘れそ」道真公を慕って、都から、一夜で飛んできたと伝えられる由緒の梅。品種は色玉垂で極早の八重咲きで、乳白の蕾が開花すると白になる特長。

## 天神の杜（もり）／樟若葉（くすわかば）

みごろ●4月～5月上旬

天神の杜では、約百本の樟がいっせいに瑞若葉を吹き、社全体が清々しい香りに包まれます。

## 大樟（おおくす）

境内には、国指定一本を含む県指定天然記念物五十一本の大樟があり、中でも御神木よりも千年から千五百年と言われている大樟は、大正十一年国の天然記念物に指定されています。高さ39m根回り20m目通り12mの貴重な樹木で、天神さまの鎮守の杜を見守っています。

## 夫婦樟（めおとくす）

一本の大樟が、夫婦のように寄り添う姿から名づけられました。新緑の季節には神良く黄緑色に染まり、生命の森りを感じさせます。

## 菅公歴史館

道真公は、幼いころから学問に励み、学者として日本文化を高めることに貢献しました。政治家になられてからも、深い思いやりの心で、国のため、人のために尽くされました。梅の花のように清らかだったといわれる道真公の生涯を博多人形でパノラマ式に紹介しています。

●拝観料／大人200円（150円）、高大生150円（75円）、小中生100円（50円）、（　）内は30名以上の団体

●開館時間／9時～16時30分（入館は16時まで）●火曜休館（祝日は開館、翌日休館）

## ひろはちしゃの木

本殿のかたわらにあるクヌギ科の落葉樹木。落葉のため、中ほどの幹は空洞となっていますが、枝樹が繁り樹勢は健全。国の天然記念物に指定されています。6月には白い花が咲きます。

## 絵馬掛所

それぞれの願い事を書かれた絵馬が奉納されています。合格成就の際には感謝の御礼絵馬が多く見られます。

## 手水舎（てみずしゃ）

手や口を清める手水舎は、大きな「牧石」の中央に神亀の浮き彫りがあります。手を洗い口を濯いで本殿に向かいましょう。

## 御神牛

道真公が丑年生まれであることや、亡骸を乗せた牛車が止まった場所が現在の本殿であることなど、天神さまと関わりの深い牛を「神牛」として称えています。

## 絵馬堂

文化十年（1813）

［筑前名所図絵］の著者として知られる、貝原益軒の甥の子により寄進されたと伝えられています。絵馬堂と称するのは、仏教との結びつきが強いことを示しています。

## 厄晴れひょうたん掛所

厄除けを祈願し、願い事を書いた紙を納めた「厄晴れひょうたん」は、掛所に奉納され、厄晴れひょうたん焼納祭（4月1日）でお焚きあげします。

## 天開稲荷社

場内の北東、小高い丘の上にあり、稲荷大神（宇迦之御魂神）をお祀りしております。鎌倉時代末期に京都伏見稲荷大社からの御分霊を宮司邸の邸内社として勧請し、その後現在の地に遷されました。九州では最も歴史のある稲荷社です。御本殿裏には奥の院（石室）があり、毎月1日には、月次祭が斎行されます。

## 皇后梅（さきいのうめ）

大正十年、貞明皇后（大正天皇皇后）がご参拝の折、菓山御用邸より献上された紅梅の梅をお手植えされた縁承木。本殿に向かって左正面で、白の飛梅に対し、紅の華麗な八重の梅をつけます。

## 九州国立博物館

明治二十六年（1893）の太宰府天満宮第36代西高辻信厳宮司が提唱し、その後、当宮境内地約5万坪を寄贈し、天神の杜の一角に誕生しました。東京・京都・奈良に次ぐ日本で四番目の国立博物館。平成十七年十月十六日［日］開館。

●天満宮御国博入口

太宰府天満宮と九州国立博物館を最短距離の直線で結ぶトンネルを勤く歩道と屋根つきのエスカレーターにより、約7分ほどで博物館玄関に到着します。

## 宝物殿

御真筆と伝えられる「五言絶句」の双幅「国宝の軸苑など、御神前にささげられた約五万点の宝物が展示室（三室）と収蔵庫に収められています。三面マルチビジョンでは、当宮の歴史と太宰府史跡のビデオを上映しています。

●拝観料／大人300円（200円）、高大生200円（100円）、小中生100円（50円）、（　）内は30名以上の団体

●開館時間／9時～16時30分（入館は16時まで）

●月曜休館（祝日の場合は翌日）

## 相輪樓（そうりんとう）

仏教の塔の新しい形式で伝教大師によって伝えられ、心柱が通り下から露盤、覆鉢、請花、九輪、水煙、竜舎、宝珠の各部から成る、亭和一年（1802）に建立。伝仏四年（1847）再建、千七十五年大祭記念として東神苑より此の地に移転されました。我が国に八基あり、九州に現存するのはこの基のみという貴重な建造物です。

## 志賀社

太鼓橋の傍にある天満宮の末社で、長禄二年（1458）の再建と伝えられます。小さいながら貫禄のある神殿は入母屋造、祭神は海神・綿津見三柱神で重要文化財に指定されています。

## 今王社（いまおうしゃ）

昔は参道にあった天満宮の末社のひとつ。藩主の代参者達が、参詣の途中で汚れに遭うと、ここに幣物を捧げて帰るのが通例だったといわれています。

## 筆塚

弘法大師・小野道風とともに書の「三聖」と称された道真公。書道や学問の上達を祈念して築かれ、古い筆記具に感謝し納められます。

## 麒麟（きりん）

嘉永五年（1852）、鋳工・山鹿氏の作と伝えられ、四肢を伸ばし、尾を振りあげて後ろを振り返っています。鋼製鶯と共に県の文化財に指定されています。

## 花菖蒲

みごろ●6月初旬～6月中旬

東神苑の菖蒲池に、約四十種、三百鉢三万本が咲き競います。白、うす紫、紫の花々の風情ある姿が、雨模様の空に映えます。

## 楼門

本殿側と太鼓橋側とで形態の異なる珍しい楼門。廻廊とともに何度か焼失し、現在の門は大正三年に再建されたものです。

## 心字池

心の字をかたどったことから「心字池」と呼ばれています。本殿に参拝するあたり、この池を渡ることによって身も心も清浄になるともいわれています。

## 歌舞伎と相撲の石灯籠

参道の両側に立つ大きな石灯籠には、「東京歌舞伎座俳優」「東京大相撲協会」の刻銘があります。道真公の先祖野見宿禰が天皇の前で相撲をとったという記紀の由縁によるものです。

## 太鼓橋

天満宮の鳥居をくぐると、参道と本殿の間には池や橋を配した神苑が広がっています。池にかかる三つの橋が太鼓橋、平橋、太鼓橋で、手前から過去・現在・未来を渡る橋と言われています。

## 文書館

宝物殿と並んで本殿の東方にあります。道真公御神忌千年大祭の記念事業として、明治三十四年に建てられました。入口に大きな唐破風りの建物です。

## 大鳥居

新田大炊介義貞と伝えられる鳥居は、鎌倉末期の作で県指定文化財に指定されています。中世の姿をとどめた姿は県の文化財に指定されています。

## 延寿王院（えんじゅおういん）

太鼓橋手前にあり、幕末に五堂を中心とした建新回天が、こと行われたことは有名です。山門は天保五年（1834）に建てられ切妻造本瓦葺です。

## 東風吹かばの歌碑

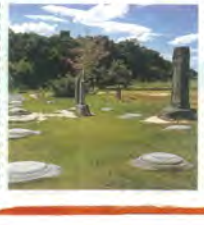
道真公が都を去る日、自邸紅梅殿の梅に想いを残して詠んだと言われる和歌を記した歌碑。この他にも万葉歌碑など、境内には多くの歌碑があります。

## 榎社

道真公が約二年間お住まいになられた謫居の地。秋の神幸式大祭では、御神輿の御神幸があり、行宮（御旅所）となります。その奥には、道真公をお助けしたいう浄妙尼を祀る小社。御神輿は先ずこの浄妙尼社に参詣の御幣を捧げた後、行宮榎社でお泊りになる。天満宮より徒歩約30分。

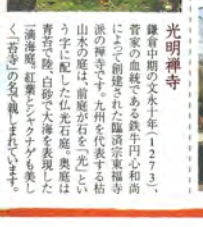
## 親世音寺

筑紫で崩御された御生母・斉明天皇の冥福を祈るために、天智天皇が創建、九州の寺院を束ねる「府大寺」として栄えました。天平十八年（746）聖武天皇の時代に完成し、日本最古の梵鐘や二十体余の仏像は、国宝や重要文化財に指定されています。



## 大宰府政庁跡

約一三百年前、天智天皇により九州の政治の中心として創建されました。「都府の楼」にはわずかに瓦の色を看る観音寺は「都府の楼」と、道真公が詠まれたことから都府楼跡の名で親しまれ、国の特別史跡跡に指定されています。天満宮から西へ約一粁にあり、現在は大きな礎石だけが残ります。



## 光明禅寺

鎌倉中期の文永十年（1273）、菅家の血統である鉄牛円心和尚によって創建された臨済宗東福寺派の禅寺です。九州を代表する枯山水の庭は、前庭が石を「光」という字に配した仏光石庭、奥庭は青苔で陸、白砂で大海を表現した「漣海庭」紅葉とシャクナゲが美しく"苔寺"の名も親しまれています。

## 龍門神社

神武天皇の御生母、玉依姫命を祀る縁結びの神さま。「春は萌え秋はこがるる龍門山」と詠われた神社周辺は、春は桜、秋は紅葉が美しく、参拝はもとより、年間を通じて登山を楽しむ人々で賑わいます。頂上宮、麓に下宮が鎮座し、天満宮から徒歩約30分。

## 太宰府近郊のみどころ